

平成 26 年度国立大雪青少年交流の家第 3 回施設業務運営委員会管理運営部会議事要旨

日時：平成 26 年 11 月 20 日（木）13:30～15:30

場所：国立大雪青少年交流の家 多目的研修室

運営委員出席者：笠井委員長（ワグナーパー）、瀬川委員（部会長）、片岡委員

計 3 名

欠席者：西海委員，服部委員，松本委員

計 3 名

国立大雪青少年交流の家出席者：阿部所長，秋山管理係長，小川会計専門職，三田総務係員

計 4 名

（●事務局 ○部会長 □委員）

●開会宣言

会議時間，資料確認，欠席委員の報告及び山内委員の変更について説明後，部会長による議事進行。

○部会長

審議事項等確認後，議題 1 より審議開始。

<議題 1> 平成 26 年度自己点検・評価（中間評価）

○部会長

「新しい公共」型の施設業務運営委員会の果たす役割の一つとして，「試行的実施の基本方針」では「試行的実施の自己点検・評価」を行うこととなっている。最終的な結果は施設業務運営委員会から機構理事長へ報告することとされており，管理運営部会で今年 1 年の検討結果について評価を行う必要がある。

本件は，10 月 4 日に開催した「委員長・部会長会議」において，各部会ごとの自己点検・評価項目について決定したところであり，配布資料の 3-1 は管理運営部会の点検・評価項目となっている。

本件について事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

本件について本日審議いただきたい点が 2 点ある。1 点目はこの評価項目が評価を行うにあたり適した内容となっているか。2 点目は評価の観点を施設業務運営委員が評価を行いやすいよう昨年度から変更を加えたことについて問題がないかということ審議いただきたい。

なお，年度末までの検討状況の予定を加味し，現時点での「自己評価（案）」を記載している。中間評価は年度末の最終評価を行いやすくするためまとめたものであり，年度末に再度評価していただく。この評価は，今後の検討状況を踏まえ，各委員の意見をいただき決定していく。

また，資料 3-2 は自己点検評価（案）の根拠資料として作成したものである。波線部分は今後実施予定項目となっている。

P 3 の（2）本部への意見書（案）の補足として，意見書は機構本部へ評価結果とともに提出する。先に実施した委員長・部会長会議では①から③の要望としていたが，その後の機構本部からの説明や

他施設の状況を踏まえ次の観点を踏まえ、内容を検討していく必要がある。

なお、①の技能補佐員の雇用延長は11月13日付け文書にて機構本部より差し支えない旨回答があり、管理運営部会として大きな成果と考えている。

○部会長

ただいま事務局より説明のあった点について意見・ご質問をお願いしたい。

□委員

特になし。

○部会長

管理運営部会の審議は機構本部との折衝、更には国の厳しい予算状況もあり、難しい事項が多くなっている中、技能補佐員の雇用延長は大きな成果である。

また、50周年記念事業の準備も少しずつではあるが着実に成果を上げていると感じる。評価の観点、評価項目については、議案のとおり決定し、評価内容は今後の審議とさせていただく。

<議題2> 50周年記念事業準備

○部会長

本議案に関しては、前回の部会において地方公共団体を加えた実行組織の設立、企業への寄附金の依頼に関して、交流の家を応援する気運の醸成を図っていくにあたって具体的なアクションプランを作成し働きかけていくこととしている。

また、50周年を迎えた阿蘇青少年交流の家の視察を行った点を踏まえ、事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

50周年に向け部会と協働で進める事項等をまとめた資料4-1をご覧ください。

1点目、地域・企業へのさらなる貢献・イベントの仕掛けとしてゆーすフェスタへ上川管内家庭教育サポート企業の上川23ネットの出展が実現し、青少年教育に関して協働の一步となる今後の連携に繋がる取り組みを行えた。

2点目、地元地方公共団体への協力依頼として資料4-2のとおり実行組織のたたき台案をした。

3点目、民間企業・地元有料企業への協力依頼として資料4-3のとおり記念事業の寄附金や広報等の依頼の際に必要な具体的な事業計画作成した。記念式典以外の仕掛けでは「大雪らしさ」、「地域と連携協働」、「北海道の青少年教育の拠点」をキーワードとしてアピールしていきたいと考えている。

その他としてOBへ8月末に1次案内を送付し、記念事業のアピールや協力依頼を行った。

また、50周年記念事業ワーキンググループにおいて施設業務運営委員より「OBのみならずファンクラブのような組織の設立。」について意見をいただいた。この意見を踏まえ「上川の教育を考える会」の開催を決定し、各委員にも案内を行ったところである。

今後、地域やOBとの連携を深め、みなさんの意見を取り入れた式典にしていくことや実行組織の設立を行っていききたいと考えている。

○部会長

本件はたたき台案の段階のため事務局からの説明に対して、忌憚のない自由な意見や質問をいただきたい。

□委員

全道高齢者大学の集いは良い発想とを感じる。

○部会長

高齢者大学は地域ごとに活動の特色は異なっているものか。

●事務局

現状として大きい市町の大学は活動の選択肢が多く、小さい町村は選択肢が少ないことから全道高齢者大学の集いは良い交流の機会でもあると考えている。

○部会長

富良野市の高齢者大学も一昨年からは演劇を始めた。高齢者の苦手とするジャンルのセミナーなど企画してもおもしろいのではないか。また、地域特性を活かした登山フォーラムも魅力的である。

●事務局

御嶽山の事案もあり防災教育や危機管理については今後の重要性・ニーズが高くなると考えている。

□委員

記念事業の計画が9月から10月となっているが通常の繁忙期と重複し過密ではないか。

●事務局

負担とならないよう工夫を行い計画し、ピークを10月の記念式典に持って行きたいと考えている。

○部会長

中小企業家同友会では青年部会の育成に力を入れており、同友会の目標である企業理念について先だって富良野市で全道大会を行った。勉強合宿など熱心行っているため、このような団体へ施設利用の声かけを行うことも検討してみてもどうか。

また、記念事業に新しいスポーツ大会など工夫を加えたものも企画してみてもどうか。

□委員

ゆーすフェスタは多くの見所がありとても良かった。来場者の年齢層も幅広く若い親であれば多くがリピーターになると感じた。また、高齢者や幼稚園のステージ発表あり内容が充実していた。

○部会長

10月18日に実施された阿蘇青少年交流の家の50周年記念式典の視察について事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

資料4-4及び視察写真によるスライドショーを使用して説明。

大雪での開催をイメージしながら式典の視察を行ってきた。印象として式典の大まかな流れは崩さず大雪らしさを表現すること、式典運営へのOBの参画や当日の協働など考えていく必要があると感じた。

○部会長

阿蘇は施設内も外履きであったが大雪では上履きに替える必要があること。来場者が受付周辺で話し込み混雑していたことから受付後の談話場所を設けることや大雪の歴史などのディスプレイを掲示又は上映するなど受付時の工夫が必要と感じた。

また、来場者の多くは高齢の方が予想されるため、祝賀会の会場も含め椅子の配置方法も検討の必要があると感じた。

なお、祝賀会の会場を大雪以外で行うことは移動の負担も考えると望ましくないと感じた。

●事務局

大雪の記念式典等では地域及び学生のボランティアや利用者を参画させるなど「大雪らしさ」を出していきたいと考えている。

また、記念誌に掲載する写真など集める方法も検討が必要と考えている。

○部会長

今後この視察を参考として式典当日の運営にどのようにOBや地域の方が参画していくかの検討を行い、大雪らしさを出した式典を計画していただきたい。

本件について、質問や意見があればお願いしたい。

□委員

特になし。

<議題3> 自己収入増加方策

○部会長

管理運営部会では今年度の審議事項の一つとして「自己収入増加の方策」がある。

50周年に関する寄附金獲得のための説明責任として、自助努力により自己収入の検討・実施を図る必要があることに基づいているもの。この件について事務局より説明をお願いしたい。

●事務局

検討の方向性を説明後、検討を行う自己収入に係る増加する収入額及び課題について説明。

実施に当たっては利用者理解を得る時間、利用団体の予算上の措置が必要になることから早くても平成28年度の施行となると考えている。

平成27年度からの実施の実現性が高いものとしてバス使用料金の徴収や助成金獲得方策を考えている。段階的に実現を行い平成27年度当初からの寄附金に関する企業等への訪問時の説明責任の一つとしていきたい。

○部会長

自己収入の増加方策の実現には利用者に十分説明することで理解を得て、施設稼働の低下に繋がらないよう配慮することも大事である。

慎重な検討が必要となりますが、国の施策・方針でも自己収入増加の必要性は言われており段階的に実現できればよいと考えている。

ただいまの説明について質問・意見等があればお願いしたい。

□委員

旭川市も財源確保に係る対策・検討を重ねているところである。適正な施設管理をする上で財源は必要になる。現在、大雪では駐車場料金は徴収していないのか。

●事務局

徴収していない。

□委員

例えば冬期間の駐車場除雪経費として冬期のみ駐車料金を徴収すれば目的も明確であり、利用者から理解を得られるものとする。

また、社会福祉協議会では赤い羽募金を募る際に旭川市のキャラクター「あさっぴー」のバッチを500円で販売している。子供のために親が購入したり、2014年、2013年でデザインを変更することで購入リピーターが多くとても人気がある。価格は子供がお小遣いで購入できる価格が望ましいと思う。大雪のオリジナルキャラクターを考案し、この取り組みを工夫して活用すれば道外などにおいて施設を直接利用はできないが大雪を応援したいという人から多くの協力を得られると感じる。

50周年の寄付や施設のPR効果も期待もできることから検討していただきたい。

□委員

50周年記念キャラクターなどもおもしろいと思う。キャラクターグッズ販売で収益を上げている他施設はあるのか。

●事務局

ない。

□委員

地域と連携した北海道の補助金（地域まちづくり総合交付金）などもあるので、美瑛町と協力して申請することも検討するのも良いと思う。

●事務局

自己収入の増加方策として多くの参考となる貴重な意見をいただいた。今後、更に検討していく。

○部会長

平成27年度から実現可能性の高いバス使用料金の徴収に関しては、機構本部等の動向を見据えながら実施の検討を進める方向で良いか。

□委員

了承。

○部会長

本件については今後も継続審議とする。次回は最終部会となることから必要に応じて書面審議を行う必要がある。今後、事務局から依頼があった場合は協力をお願いしたい。

□委員

了承。

<議題4> 優秀な非常勤職員の任用

○部会長

前回の審議において、優秀な非常勤職員・技能補佐員の雇用延長の必要性から機構本部に要望書を提出し、その結果を踏まえ11月以降まで退職教員の雇用の検討を保留すること。併せて事務補佐員の採用について、優秀な資質を備えた人材の推薦についてお願いしていた。

また、10月開催の委員長・部会長会議では常勤職員の定数削減の問題について機構本部へ状況確認を行うこととしていた以上の点について事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

先に実施された機構本部での所長ヒアリングの結果等踏まえ、阿部所長より説明。

技能補佐員の雇用延長については11月13日付け文書にて機構本部より差し支えない旨回答得た。

また、定数削減に関する機構本部の見解については計画通り行われる旨確認した。以上を踏まえ関係機関の協力を得ながら広く公募を行い優秀な資質を備えた人材を採用する必要が生じてきたところである。

○部会長

技能補佐員の雇用延長については大きな成果となった。50周年を目前とした定数削減の厳しい状況の中、施設維持管理を支える優秀な人材として技能補佐員の雇用延長は重要な成果と感じている。

また、定員削減への対応がほぼ決定した状況の中、その定数を埋めることとなる非常勤職員人材について、退職教員の雇用を本格的に検討していく必要がある。対象者には関係機関への協力を求め、広く公募していただきたい。

なお、事務補佐員については2月頃の公募に向けて今後も優秀な資質を備えた人材について推薦をお願いしたい。

□委員

了承。

○部会長

公募にあたって必要とする人材、公募要領などについては改めて関係機関とのスケジュール調整を踏まえ書面審議とさせていただく。以上で予定されていた審議を終了する。

次回の管理運営部会の予定について事務局から説明をお願いしたい。

●事務局

次回管理運営部会は2月を予定しており施設業務委運営委員合同会議と同時開催となる。後日、書面会議等を含め日程について照会させていただく。

会議終了、閉会挨拶、閉会宣言